

I 学校の概要

今年度、本校の敷地及び校舎の大部分が市の土砂災害警戒区域に指定されたことにより、避難訓練の実施等が義務づけられることとなった。学校と地域、行政とが連携した取組が求められている。

II 避難訓練の取組の概要

1 土砂災害警戒区域としての取組

- (1) 危機管理マニュアルの見直し
これまでの危機管理マニュアルを見直し、新たに土砂災害を想定した「土砂災害に関する避難確保計画」を作成し、職員会議等で共通理解を図った。
- (2) 避難訓練の見直し
地域での豪雨の発生により、土砂災害発生危険度が高まった想定で、車両等による保護者への引渡し下校訓練を計画した。実際場面への対応能力を高めるとともに、シミュレーションの機会として位置付けた。

2 避難訓練の内容とねらい

- (1) 避難訓練の内容
豪雨による土砂災害の危険度が高まった想定で避難訓練を実施し、各学年の保護者への引渡しを行う。
- (2) 避難訓練のねらい
 - ・ 保護者へ児童の引渡しを想定した学校職員の動きの確認と児童への周知
 - ・ 大雨、台風時の水難事故防止の徹底を図り、保護者や地域との連携の気運を高める。

3 避難訓練実施までに工夫したこと

- (1) 始良市教育委員会、重富校区コミュニティ協議会等との打合せの実施
- (2) 始良っ子見守り隊員や保護者等の協力による訓練の実施

4 避難訓練の状況

- (1) 保護者への引渡し避難訓練の実施
 - ア 開催期日 令和3年10月9日(土)
 - イ 参加者 全児童648人
 - ウ 保護者400人
 - 始良っ子見守り隊30人

(2) 避難訓練の実際



【来校した保護者の児童教室への移動場面】



【見守り隊員の誘導と親子での下校場面】

5 取組の成果と課題

- (1) 成果
 - ・ 今年度初めて位置付けた訓練であったが、計画段階から協議を重ねたことにより、学校職員の災害発生に対する危機意識が高まった。また、地域住民、保護者へ訓練の意義について周知を図ることができた。
 - ・ 危機管理マニュアルに基づいた避難訓練を実施することで、課題を明確にすることができた。
- (2) 課題
学校の立地から、短時間での保護者への引渡しは難しい面がある。安全で効率的な避難の方法について、関係機関や地域との連携を図りながら検討していきたい。来年度以降も、訓練を計画に位置付け、改善を図っていきたい。